

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）								
フリガナ設置者	ガッコウホジシ ヌートルダム ジョウクイン 学校法人 ノートルダム女学院								
フリガナ大学の名称	キョウトノートルダム ジョシダ イガク 京都ノートルダム女子大学（Kyoto Notre Dame University）								
大学本部の位置	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地								
大学の目的	教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与する。								
新設学部等の目的	社会情報課程において、社会における情報の意味とその働きを理解し、情報を科学的に取り扱うための基礎的な知識・技能と態度を身につけるとともに、自ら問いを立て、主体的に解決をめざせる能力を身につけることを目的とし、社会学、心理学、教育学など関連する人文・社会諸科学による学際的な教育研究を行う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	学部等連係課程実施基本組織 社会情報課程 【Interfaculty Program in Social Informatics】	4年	20人	0年次人	80人	学士（社会情報） 【Bachelor of Social Informatics】	令和5年4月 第1年次	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	学部等連係課程 実施基本組織 学位の分野： 文学関係、社会学 ・社会福祉学関係、 教育学・保育学関係
	連係協力学部（Ⅰ） 国際言語文化学部 【Faculty of Language and Culture】 国際日本文化学科 【Department of Japanese and Global Cultures】	4	50	3	206	学士（人間文化） 【Bachelor of Arts】	平成12年4月 第1年次	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	学位の分野： 文学関係
	連係協力学部（Ⅱ） 現代人間学部 【Faculty of Contemporary Human Sciences】 生活環境学科 【Department of Human Life Environments】	4	70	0	280	学士（生活環境） 【Bachelor of Human Life Environments】	平成29年4月 第1年次	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	学位の分野： 家政関係、社会学 ・社会福祉学関係
	生活環境学科から社会情報課程のうち数とする入学定員数		7	0	28				
	心理学科 【Department of Psychology】	4	100	0	400	学士（心理学） 【Bachelor of Psychology】	平成29年4月 第1年次		学位の分野： 文学関係
	心理学科から社会情報課程のうち数とする入学定員数		7	0	28				
	こども教育学科 【Department of Child Education】	4	70	0	280	学士（こども教育） 【Bachelor of Child Education】	平成29年4月 第1年次		学位の分野： 教育学・保育学関係
こども教育学科から社会情報課程のうち数とする入学定員数		6	0	24					
計		—	—	—					

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)										
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	学部等連係課程実施基本組織 社会情報課程	92 科目	50 科目	7 科目	149 科目	124 単位				
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		(注) 〈 〉の中の数は 学部等連係課程 実施基本組織の みに従事する専 任教員 【 〇 】の中の数は 学部等連係課程 実施基本組織と 連係協力学部等 を兼ねる専任教員
	新設分	学部等連係課程実施基本組織 社会情報課程 連係協力学部(Ⅰ) 国際言語文化学部 国際日本文化学科 連係協力学部(Ⅱ) 現代人間学部 生活環境学科、心理学科、 こども教育学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任 教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
			〈2〉 【4】 (7)	〈1〉 【4】 (5)	〈0〉 【0】 (0)	〈0〉 【0】 (0)	〈3〉 【8】 (12)	〈0〉 【0】 (0)	〈0〉 【76】 (76)	
		計	6 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	— (—)	
	既	国際言語文化学部 英語英文学科	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	81 (81)	
			6 【0】 (6)	4 【2】 (4)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	11 【2】 (11)	0 【0】 (0)	103 【73】 (103)	
			11 (11)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	— (—)	
	設	現代人間学部 生活環境学科	6 【0】 (7)	4 【2】 (4)	2 【0】 (0)	0 【0】 (0)	12 【2】 (11)	0 【0】 (0)	110 【73】 (110)	
			6 【3】 (6)	6 【0】 (5)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	14 【3】 (13)	0 【0】 (0)	102 【73】 (102)	
			5 【1】 (5)	7 【0】 (8)	3 【0】 (3)	0 【0】 (0)	15 【1】 (16)	0 【0】 (0)	104 【73】 (104)	
			17 (18)	17 (17)	7 (5)	0 (0)	41 (40)	0 (0)	— (—)	
	分	教育センター	0 0	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	— (—)	
6 (7)			5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	— (—)		
合計		6 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	— (—)		
教員 以外 の 職員 の 概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		44 (44)		22 (22)		66 (66)			
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		2 (2)		4 (4)			
	そ の 他 の 職 員		6 (6)		1 (1)		7 (7)			
計		52 (52)		25 (25)		77 (77)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	17,206 m ²	0 m ²	0 m ²	17,206 m ²					
	運 動 場 用 地	9,228 m ²	0 m ²	0 m ²	9,228 m ²					
	小 計	26,434 m ²	0 m ²	0 m ²	26,434 m ²					
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²					
合 計	26,434 m ²	0 m ²	0 m ²	26,434 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		27,323 m ² (27,323 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	27,323 m ² (27,323 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	室	室	室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数	室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	計									
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
		m ²	席	冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		m ²								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費は電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		1,500千円	1,500千円	1,000千円	－千円	－千円	－千円	
		図書購入費	1,000千円	2,000千円	1,500千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	1,000千円	2,000千円	2,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,380千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、雑収入 等							

既設大学等の状況	大学の名称	京都ノートルダム女子大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	国際言語文化学部 英語英文学科	4	80	3年次 2	324	学士(文学)	0.83	昭和36年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地
	国際日本文化学科	4	50	3	206	学士(人間文化)	1.00	平成12年度	
	現代人間学部 生活環境学科	4	70	—	280	学士(生活環境)	0.77	平成29年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地
	心理学科	4	100	—	400	学士(心理学)	0.84	平成29年度	
	こども教育学科	4	70	—	280	学士(こども教育)	0.78	平成29年度	
	心理学部 心理学科	4	—	—	—	学士(心理)	—	平成17年度	平成29年度より学生募集停止(心理学部心理学科)
	現代心理専攻 学校心理専攻 臨床心理専攻		—	—	—				
	人間文化研究科 (修士課程) 応用英語専攻	2	8	—	16	修士(応用英語)	0.25	平成14年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地
	人間文化専攻	2	3	—	6	修士(人間文化)	0.16	平成17年度	
	心理学研究科 (博士前期課程) 臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士(心理)	0.85	平成17年度	
	(博士後期課程) 心理学専攻	2	4	—	12	博士(心理)	0.08	平成17年度	
	附属施設の概要	該当なし							

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況																																																																																			
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員																																																																														
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授																																																																													
(Blank area for reporting current status)					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="8" style="text-align: center;">社会情報課程</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">学士 (社会情報)</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">文学関係, 社会学・社会福祉学関係, 教育学・保育学関係</td> <td>国際言語文化学部 国際日本文化学科(兼務)</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>現代人間学部 生活環境学科(兼務)</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>現代人間学部 心理学科(兼務)</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>現代人間学部 こども教育学科(兼務)</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>その他(教育センター)</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>新規採用</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </table>					社会情報課程	学士 (社会情報)	文学関係, 社会学・社会福祉学関係, 教育学・保育学関係	国際言語文化学部 国際日本文化学科(兼務)	2	0	現代人間学部 生活環境学科(兼務)	2	0	現代人間学部 心理学科(兼務)	3	3	現代人間学部 こども教育学科(兼務)	1	1	その他(教育センター)	2	1	新規採用	1	1	計	11	6																																																							
社会情報課程	学士 (社会情報)	文学関係, 社会学・社会福祉学関係, 教育学・保育学関係	国際言語文化学部 国際日本文化学科(兼務)	2	0																																																																																			
			現代人間学部 生活環境学科(兼務)	2	0																																																																																			
			現代人間学部 心理学科(兼務)	3	3																																																																																			
			現代人間学部 こども教育学科(兼務)	1	1																																																																																			
			その他(教育センター)	2	1																																																																																			
			新規採用	1	1																																																																																			
			計	11	6																																																																																			
			国際言語文化学部 英語英文学科	学士 (文学)	文学関係	国際言語文化学部 英語英文学科	9	4																																																																																
退職	1	1																																																																																						
計	10	5																																																																																						
		計				10	5																																																																																	
国際言語文化学部 国際日本文化学科	学士 (人間文化)	文学関係	社会情報課程(兼務)	2	0																																																																																			
			国際言語文化学部 国際日本文化学科	11	6																																																																																			
			計	13	6																																																																																			
					計	13	6																																																																																	
現代人間学部 生活環境学科	学士 (生活環境)	家政関係, 社会学・社会福祉学関係	社会情報課程(兼務)	2	0																																																																																			
			現代人間学部 生活環境学科	8	4																																																																																			
			退職	3	3																																																																																			
			計	13	7																																																																																			
現代人間学部 心理学科	学士 (心理学)	文学関係	社会情報課程(兼務)	3	3																																																																																			
			現代人間学部 心理学科	12	5																																																																																			
			退職	1	1																																																																																			
			計	16	9																																																																																			
現代人間学部 こども教育学科	学士 (こども教育)	教育学・保育学関係	社会情報課程(兼務)	1	1																																																																																			
			現代人間学部 こども教育学科	12	4																																																																																			
			退職	4	1																																																																																			
			計	17	6																																																																																			
					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="8" style="text-align: center;">社会情報課程</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">学士 (社会情報)</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">文学関係, 社会学・社会福祉学関係, 教育学・保育学関係</td> <td>国際言語文化学部 英語英文学科</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>新規採用</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">国際言語文化学部 国際日本文化学科</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">学士 (人間文化)</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">文学関係</td> <td>社会情報課程(兼務)</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>国際言語文化学部 国際日本文化学科</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">現代人間学部 生活環境学科</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">学士 (生活環境)</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">家政関係, 社会学・社会福祉学関係</td> <td>社会情報課程(兼務)</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>現代人間学部 生活環境学科</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>新規採用</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">現代人間学部 心理学科</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">学士 (心理学)</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">文学関係</td> <td>社会情報課程(兼務)</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>現代人間学部 心理学科</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td>新規採用</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">現代人間学部 こども教育学科</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">学士 (こども教育)</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">教育学・保育学関係</td> <td>社会情報課程(兼務)</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>現代人間学部 こども教育学科</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>新規採用</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </table>					社会情報課程	学士 (社会情報)	文学関係, 社会学・社会福祉学関係, 教育学・保育学関係	国際言語文化学部 英語英文学科	9	4	新規採用	1	1	計	10	5			計	10	5	国際言語文化学部 国際日本文化学科	学士 (人間文化)	文学関係	社会情報課程(兼務)	2	0	国際言語文化学部 国際日本文化学科	11	6	計	13	6			計	13	6	現代人間学部 生活環境学科	学士 (生活環境)	家政関係, 社会学・社会福祉学関係	社会情報課程(兼務)	2	0	現代人間学部 生活環境学科	8	4	新規採用	4	2	計	14	6	現代人間学部 心理学科	学士 (心理学)	文学関係	社会情報課程(兼務)	3	3	現代人間学部 心理学科	12	5	新規採用	2	1	計	17	9	現代人間学部 こども教育学科	学士 (こども教育)	教育学・保育学関係	社会情報課程(兼務)	1	1	現代人間学部 こども教育学科	12	4	新規採用	3	1	計	16	6
社会情報課程	学士 (社会情報)	文学関係, 社会学・社会福祉学関係, 教育学・保育学関係	国際言語文化学部 英語英文学科	9	4																																																																																			
			新規採用	1	1																																																																																			
			計	10	5																																																																																			
					計	10	5																																																																																	
			国際言語文化学部 国際日本文化学科	学士 (人間文化)	文学関係	社会情報課程(兼務)	2	0																																																																																
						国際言語文化学部 国際日本文化学科	11	6																																																																																
						計	13	6																																																																																
								計	13	6																																																																														
現代人間学部 生活環境学科	学士 (生活環境)	家政関係, 社会学・社会福祉学関係	社会情報課程(兼務)	2	0																																																																																			
			現代人間学部 生活環境学科	8	4																																																																																			
			新規採用	4	2																																																																																			
			計	14	6																																																																																			
現代人間学部 心理学科	学士 (心理学)	文学関係	社会情報課程(兼務)	3	3																																																																																			
			現代人間学部 心理学科	12	5																																																																																			
			新規採用	2	1																																																																																			
			計	17	9																																																																																			
現代人間学部 こども教育学科	学士 (こども教育)	教育学・保育学関係	社会情報課程(兼務)	1	1																																																																																			
			現代人間学部 こども教育学科	12	4																																																																																			
			新規採用	3	1																																																																																			
			計	16	6																																																																																			

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和36年4月	文学部英語英文学科 設置	文学関係	設置認可(学部)
昭和38年4月	文学部生活文化学科 設置	文学関係	設置認可(学科)
平成12年4月	人間文化学部英語英文学科 設置	文学関係	設置認可(学部)
	人間文化学部人間文化学科 設置	文学関係	
	人間文化学部生活福祉文化学科 設置	文学関係、社会学・社会福祉学関係、家政関係	
	人間文化学部生涯発達心理学科 設置	文学関係	
平成12年4月	文学部英語英文学科、生活文化学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成17年4月	心理学部心理学科 設置	文学関係	設置届出(学部)
平成17年4月	人間文化学部生涯発達心理学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成19年4月	生活福祉文化学部生活福祉文化学科 設置	文学関係、社会学・社会福祉学関係、家政関係	設置届出(学部)
平成19年4月	人間文化学部生活福祉文化学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成29年4月	現代人間学部福祉生活デザイン学科 設置	社会学・社会福祉学関係、家政関係	設置認可(学部)
	現代人間学部心理学科 設置	文学関係	
	現代人間学部こども教育学科 設置	教育学・保育学関係	
平成29年4月	生活福祉文化学部生活福祉文化学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学部)
	心理学部心理学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学部)
平成31年4月	人間文化学部 → 国際言語文化学部	文学関係	名称変更(学部)
	人間文化学部人間文化学科 → 国際言語文化学部国際日本文化学科	文学関係	名称変更(学科)
令和3年4月	現代人間学部福祉生活デザイン学科 → 現代人間学部生活環境学科	社会学・社会福祉学関係、家政関係	名称変更(学科)

教育課程等の概要

(社会情報課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間と文化	日本文学	1前		2		○									兼1	
	外国文学	1後		2		○									兼1	
	日本近現代史	1前		2		○									兼1	
	東アジア近現代史	1前		2		○									兼1	
	ヨーロッパ近現代史	1後		2		○									兼1	
	歴史の中の女性	1後		2		○									兼1	
	文化人類学	1後		2		○									兼1	
	小計 (7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—
	生活と社会	暮らしの法律学	1前		2		○									兼1
		憲法と人権	1後		2		○									兼1
		暮らしの経済学	1後		2		○									兼1
		国際関係論入門	1前		2		○									兼1
		社会学概論	1前		2		○									兼1
		ジェンダー論	1後		2		○									兼1
ボランティア概論		1前		2		○									兼1	
小計 (7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—	
人間と自然	身近な自然科学	1前		2		○									兼1	
	身近な医学	1・2前		2		○									兼2 オムニバス	
	生命倫理	1後		2		○									兼1	
	心理学入門	1前		2		○			1							
	AIとデータサイエンス入門	2後	2			○			1						兼1	
小計 (5科目)	—	2	8	0	—			2	0	0	0	0	0	兼5	—	
共通教育科目	英語理解 I	1前	1					○							兼8	
	英語表現 I	1前	1					○							兼9	
	英語理解 II	1後	1					○							兼8	
	英語表現 II	1後	1					○							兼9	
	日常の英会話	2前・後		1				○							兼3	
	旅行の英会話	2後		1				○							兼1	
	留学の英会話	2後		1				○							兼1	
	おもてなしの英会話	2前		1				○							兼1	
	ビジネス英会話	2前		1				○							兼1	
	歌って覚える英語表現	2後		1				○							兼1	
	英語リスニング	2前		1				○							兼1	
	実用英語基礎	2後		1				○							兼1	
	身近な英文法	2前		1				○							兼1	
	英語実践 (4技能) I	1・2・3・4前	1					○							兼3 集中	
	英語実践 (4技能) II	1・2・3・4後	1					○							兼3 集中	
	ドイツ語	1前		2				○							兼1	
	フランス語	1後		2				○							兼1	
	スペイン語	1前		2				○							兼1	
	アラビア語	1後		2				○							兼1	
	中国語 I	1前・後		2				○							兼3	
	中国語 II	1後		2				○							兼1	
	中国語 III	2前		2				○							兼1	
	韓国語 I	1前・後		2				○							兼1	
	韓国語 II	1後		2				○							兼1	
	韓国語 III	2前		2				○							兼1	
	海外研修 (語学) I	1・2・3・4休		2				○							兼1 集中	
海外研修 (語学) II a	1・2・3休		2				○							兼2 集中、共同		
海外研修 (語学) II b	1・2・3・4休		2				○							兼2 集中、共同		
日本語講読 I	1前		1				○							兼1		
日本語講読 II	1後		1				○							兼1		
日本語表現 I	1前		1				○							兼1		
日本語表現 II	1後		1				○							兼1		
日本語特講 I	2前		1				○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	基礎科目	日本語特講Ⅱ	2後	1			○								兼1		
		小計(34科目)	—	6	41	0		—		0	0	0	0	0	兼30	—	
		文章作成法Ⅰ	1前・後	1			○			1						兼1	
		文章作成法Ⅱ	1前・後	1			○			1						兼1	
		体育講義	1後		1		○									兼1	
		体育実技	1前		1				○							兼2	
	健康スポーツ演習	1前・後		2			○								兼3	共同	
	小計(5科目)	—	2	4	0		—		1	0	0	0	0	0	兼4	—	
	カトリック教育科目	キリスト教学	1前・後	2			○									兼1	
		キリスト教音楽概論	1前・後	2			○									兼1	
		聖書とキリスト教	2前		2		○									兼1	
		キリスト教と日本文化	2後		2		○									兼1	
		キリスト教思想	2前		2		○									兼1	
		キリスト教美術	2後		2		○									兼1	メディア
		キリスト教音楽	2後		2		○									兼1	
		小計(7科目)	—	4	10	0		—		0	0	0	0	0	0	兼5	—
	ライフキャリア形成科目	ノートルダム学	1・2前		1		○			1							
		女性とライフキャリア	1前		2		○				1						
		子育てとワークライフバランス	2前		1		○									兼1	
		ホスピタリティ入門	1前・後		2		○									兼1	
		キャリア形成	3前・後		2		○					1					
		キャリア形成ゼミ	2通		2			○				1				集中	
		短期インターンシップ	1・2通		1				○			1				集中	
		インターンシップ	2・3・4通		2					○		1				集中	
		海外インターンシップ	2・3・4休		2						1					集中	
	小計(9科目)	—	0	15	0		—		1	2	0	0	0	0	兼2	—	
	合計(74科目)	—	14	106	0		—		3	2	0	0	0	0	兼55	—	
社会情報連携科目	社会情報基礎科目	社会情報概論	1前	2			○		1								
		社会情報基礎演習Ⅰ	1前	1			○		2	2							
		社会情報基礎演習Ⅱ	1後	1			○		2	2							
		社会情報発展演習Ⅰ	2前	1			○		2	2							
		社会情報発展演習Ⅱ	2後	1			○		2	2							
		情報の科学と倫理	1前		2		○		1							メディア	
		哲学入門	1後		2		○									兼1	
		インターネット社会論	2・3・4後		2		○		1								
		ICTビジネス論	2・3後		2		○		1								
		暮らしの統計学	1後		2		○									兼1	
		AIとデータサイエンス	3前		2		○		1								
		情報技術リテラシー	2後		2		○									兼1	
		プログラミング演習	1後		2		○									兼1	
		アルゴリズム基礎	2前		2		○		1								
		情報処理	2前・後	2				○								兼1	※講義
		SNSコミュニケーションスキル	1後		2			○		1							メディア
		プレゼンテーション概論	2・3・4前		2			○			1						
	小計(17科目)	—	8	22	0		—		3	3	0	0	0	0	兼3	—	
	社会情報実践科目	アカデミック・ライティング	2前・後		2		○									兼1	
		情報演習Ⅰa	1前・後		1			○		1							
情報演習Ⅰb		1前		1			○		1								
情報演習Ⅱ		2前・後	1				○								兼1		
プログラミング実践		2後		2		○		1									
プレゼンテーション演習		2・3・4後		2			○			1							
話し方と自己表現		3前		2		○				1							
社会情報フィールド研修		2通		2						1							
社会情報インターンシップ		2・3通		2						1							
社会情報海外インターンシップ		2・3通		2					1								
子供のネット安全教育の理論と実践	2・3・4通		2		○			1						兼1			
小計(11科目)	—	1	18	0		—		3	2	0	0	0	0	兼3	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際日本文化領域	国際日本文化論	1・2後		2		○									兼1	隔年
	国際関係論	1・2前		2		○									兼1	
	哲学とキリスト教	1・2前		2		○									兼1	
	スピーチの基礎	2・3・4前		2			○		1							
	現代ジャーナリズム入門	1・2後		2		○									兼1	
	情報・メディアの文化とリテラシー	2・3・4前		2		○			1							
	図書館情報技術論	2・3・4前		2		○			1							
	子どもの読書とメディア	2・3・4後		2		○									兼1	
	メディアコンテンツ表現法	2・3・4後		2		○									兼1	
	博物館情報・メディア論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (10科目)	—	0	20	0	—	—	—	0	2	0	0	0	0	兼7	—	
生活環境領域	生活経済学	2前		2		○				1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	現代社会と家庭経営	1後		2		○				1						
	家族社会学	3後		2		○				1						
	消費生活	1後		2		○				1						
	ライフプランニング論	2後		2		○				1						
	ビジネスの基礎Ⅰ	2前		2		○										
	ビジネスの基礎Ⅱ	2後		2		○										
	マーケティング論	3前		2		○										
	ソーシャルマーケティング論	3後		2		○										
	女性起業論	3後		2		○										
	家庭電気・機械及び情報処理	1後		2		○										
	服飾心理学	2後		2		○										
	福祉住環境デザイン	2前		2		○										
小計 (13科目)	—	0	26	0	—	—	—	0	2	0	0	0	0	兼5	—	
心理領域	教育心理学概論	1・2後		2		○				1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	発達心理学概論	2・3前		2		○										
	現代青年の心理学	2・3後		2		○				1						
	高齢者の心理学	3・4前		2		○				1						
	障害者・障害児心理学	2・3前		2		○										
	知覚・認知心理学	2・3前		2		○										
	学習・言語心理学	2後		2		○										
	対人関係論	2・3前		2		○				1						
	社会・集団・家族心理学Ⅱ (家族)	2・3後		2		○										
	心理カウンセリング概論	1前		2		○										
	消費者行動の心理学	2・3前		2		○										
小計 (11科目)	—	0	22	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	兼6	—	
教育・子ども領域	教育原理	1前		2		○										兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	教育史	2後		2		○										
	教育方法学	3前		1		○				1						
	ICT活用教育	3前		1		○				1						
	情報教育	3後		2		○				1						
	国際理解教育	4前		2		○										
	算数	1後		2		○				1						
	教育社会学	2前		2		○										
	特別支援教育	2後		2		○										
	情報メディアの活用	2・3・4前		2		○										
小計 (10科目)	—	0	18	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼6	—	
卒業・専門演習	社会情報演習	3通	4				○			6	4					—
	卒業研究	4通	8				○			6	4					
	小計 (2科目)	—	12	0	0	—	—	—	6	4	0	0	0	0	0	
合計 (74科目)		—	21	126	0	—	—	—	6	4	0	0	0	0	兼27	—
科教学目育際	海外文化研修	1・2・3・4休		1			○									兼1 兼1
	小計 (1科目)	—	0	1	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	
総合計 (149科目)		—	35	233	0	—	—	—	6	5	0	0	0	0	兼76	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（社会情報）		学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>(1) 共通教育科目 必修科目14単位、教養科目の人間と文化及び生活と社会の2領域から各4単位以上及び人間と自然領域の選択科目から2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目から2単位以上、全体から選択4単位以上、合計36単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあつては、外国人留学生専用の日本語科目6単位の修得をもって外国語の必修科目の単位数に充てることができる。</p> <p>(2) 社会情報連携科目 必修科目として社会情報基礎科目8単位、社会情報実践科目1単位、専門演習・卒業研究12単位の計21単位を修得し、選択必修科目として社会情報基礎科目から12単位以上、社会情報実践科目の選択科目から情報演習I a又は情報演習I bいずれか1単位を含み9単位以上、社会情報基礎科目及び社会情報実践科目の全体から選択6単位以上、社会情報展開科目の中から12単位以上、全体から選択8単位以上、合計68単位以上を修得する。</p> <p>(3) 学際教育科目 海外文化研修及び他学科等科目から20単位まで履修できる。なお、他学科等科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。</p> <p>(4) (1)～(3)全体で124単位以上修得する。</p>						1学年の学期区分			2学期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(社会情報課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人間と文化	日本文学	日本文学の表現と文化背景に対する理解を深めることを目標とする。はじめに文学というジャンルの特徴について考察する。特に言語表現としての特徴を理解するために、絵画や音楽など、他ジャンルの表現と比較していく。続いて、国際的交流の中で形成されてきた日本文化の特徴をふまえながら、具体的な作品の分析をとおして、日本文学の特徴に対する理解を深める。これら2つの視点を前提としながら、日本文学に対する概説的な知識を身につけると共に、文学理念や文学表現理論のテキストと結びつけ、言語表現としての文学を意識的に読解できるような分析力を育てる。	
	外国文学	アラブ文学とはアラビア語で表現された文学をさす。その起源はイスラームが興る以前の西暦6世紀に遡る。それ以来、アラブ文学は現代に至るまで豊かで固有の文学伝統を築いてきた。本科目では代表的ジャンル（聖典、詩、物語など）の各作品（和訳）を注意深く読むことによって、その文学伝統を理解し、内容の考察及び解釈の仕方を学ぶ。具体的には、アラブ文学に大きな影響を与えてきたイスラームの聖典「コーラン」、もっとも長い歴史をもつアラブ古典詩、そして今や世界文学となった「アラビアンナイト」を扱う。	
	日本近現代史	日本史のなかでも特に近代史・現代史の分野について、「その出来事が歴史の流れのなかでどう位置づけられるか」ということに重点を置いて講義する。歴史学では「なぜ、そうなったのか」と考えることが重要であり、歴史は過去のものではなく、現在にも影響を及ぼしていることの実理解が必要である。特に、経済・文化に注目し、江戸時代の経済、幕末の政治状況と開国から明治維新、日本が西洋と出会い近代国家として歩んでいく中での大正デモクラシーとモダン文化、戦争と経済、占領下の日本とその後の高度経済成長へと続く流れ、及び現代日本の経済について考察する。	
	東アジア近現代史	現在、世界の成長センターとされている東アジア地域の多くが欧米列強や日本の植民地支配もしくは、その強い影響下にあった。脱植民地化や近代化の過程において、この地域は大きな政治的・社会的な変動を経験した。今日の東アジア地域の社会と国家を考えるには、この地域が当時、どのような状況におかれていたか、そして、その中でどのように国民国家形成を成し遂げようとしたかを理解することが不可欠である。本講義は、そうした歴史的な視座を受講生に学習してもらうことを目的とする。	
	ヨーロッパ近現代史	第二次世界大戦以降、東西に分断されてきたヨーロッパは、冷戦後はアメリカの一極集中に対抗するかたちで多様ななかの統合を強めつつある。前半では、EUの歴史や課題、「旧東欧」諸国の近年の変化など概観し、グローバル化した現在のヨーロッパを理解する。後半では、民族、文化、宗教、政治経済、芸術などさまざまな分野から、現代ヨーロッパの複数国の過去20年の歴史を、グループごとの資料収集と報告も交えながら議論する。同時に、それらと日本のかかわりを考察ことも視野に入れた講義を行う。	
	歴史の中の女性	男性中心とされる歴史において女性は社会とどのように係わりいかなる変容をとげたのか。アメリカと日本を中心に、文化史・宗教史・社会史上重要な役割を果たした女性達の思想や活動を歴史的に考察する。本学の母体であるノートルダム教育修道女会や、修道女の社会的使命などについての考察も行なう。具体的には、女性学・女性史の始まりから、女性と社会進出・女性解放運動、アメリカ史・日本史の概観、社会背景と平安時代から近代までの日本女性の変容を学び、さらに映画や書籍に登場する人物をとりあげ、その女性の職業や家庭など生涯について考察する。	
	文化人類学	「文化」は人と人が結びつくところに生まれるが、文化には様々な違いがあり、異なる文化同士が対立することもある。グローバル化が進み、異文化間の交流が盛んになる現在、そうした対立が様々な形で現れ、それらを解消することがますます重要になっている。本講義では、一見近寄りたく感じるような「異文化」や当たり前になっている「自文化」を見つめ直すことにより、「異文化」と「自文化」との関わりや「伝統文化」と「近代文明」との関係、自己と社会との関わりについて理解を深め、文化的な対立の解消を図る道筋を探る。	

共通教育科目 教養科目 生活と社会	暮らしの法律学	<p>日常生活で起こりがちなトラブル（注文した商品が届かない、賃貸物件の敷金を返してもらえない、交通事故に遭ってケガをした等）を素材とし、法律学の基礎、とりわけ、民法や民事特別法（借地借家法、消費者契約法など）の基本的な問題を扱う。授業時における講師と受講者あるいは受講者どうしのやりとりを通して、知識の習得とともに、「法律の条文や判例を手がかりにしながら、他人を説得できるような結論を導き出す」という法的思考を身につけることを目標とする。</p>	
	憲法と人権	<p>その国の仕組みや、どのような価値が人権として保障されるかが書かれている法律文書であり、国の基本法である「憲法」の全体像をつかむとともに、その本質にどのような考え方がありのかを学ぶ。</p> <p>①憲法とは何か ②権力分立の意義 ③人権保障の意義 ④人権保障における現代的な問題（具体的な事例から人権を考える） ⑤国際社会における日本国憲法（特に人権の視点から）</p> <p>テキストから具体例を取り上げ、それに関連する憲法の条文の意味や内容などを考える。</p>	
	暮らしの経済学	<p>近年、経済のグローバル化やさまざまな分野における規制緩和によって社会や経済の構造が大きく変革し、市場メカニズムの役割はますます重要になっている。本講義の目標は、市場経済のしくみとその特徴について学ぶと同時に、その限界についても理解することである。いま日本社会が直面している問題は、雇用問題、格差問題、財政赤字、少子高齢化、年金問題などさまざまあるが、この講義で習得した理論的な知識をもとに、多様な社会・経済問題について議論できる力を養ってもらいたい。</p>	
	国際関係論入門	<p>急速なグローバル化の進行する21世紀の国際社会において、何が起きているか、そこで、生じる様々な課題に、私たちはどのように対処したらよいかを学生に考えさせる。経済面でのグローバル化の進展に伴い、宗教、地域主義、民族主義など根ざす、「アイデンティティの政治」が近年活発である。格差の拡大や「人間の安全保障」の課題に、国家や国際機関だけでなく、広く「市民社会」が、どのように対処すべきかについて具体的に考える。</p>	
	社会学概論	<p>本講義は社会学の基礎知識を習得することを主な目的とし、さまざまな社会問題や現象を取り上げ、一つひとつ検討しながら社会のメカニズムを明らかにしていく。「社会」とは個々の家庭・家族から日常的な社会生活の場、さらには国際社会に至るまでを指しており、そこに生じている社会現象や諸問題を学ぶことによって、物事に対する多角的な視点を獲得し、日常生活の中に隠された「ひと・自己」と「社会」の関係性に気づくことを目指す。最終的に、それぞれが「社会」に対する考え方や見方を養い、積極的に「社会」に対して関わっていけるような姿勢や態度、行動力を育成する。</p>	
	ジェンダー論	<p>人間は、人であると同時に、生まれながらにして、女か男である。そして、「女」「男」という身体的な相違、性別の相違＝性差が、多くの社会において、時として、「人」の普遍的な自由と平等の保障を阻んできた。性差を根拠として差別が存在するのはなぜか。女であり、男であるということと、女らしい、男らしいということとは別である。女らしさ・男らしさというのは、性差に基づく認識であり、社会的、文化的に形成されてきた。ある取り扱いについて、男女を区別して異なる取り扱いをしている場合、そこに「合理的説明」が必要である。本講義では、身体・性・生と個人の尊重の問題を扱う。</p>	
	ボランティア概論	<p>キリスト教に影響された西欧倫理を土台にもつボランティアの性格は、日本において変化がみられ、ボランティア理解はいまいである。ボランティアは、自由や正義のために、またよりよい社会のために、自ら進んでする活動であり、共に生きる社会の実現をめざし、相手の立場に立つてものごとを考え行動する心のはたらきが不可欠である。ここではまず基礎から、ボランティアの根本精神の理解と、多様なボランティア活動への認識に入ろうとするものである。</p>	

共通教育科目	教養科目	人間と自然	身近な自然科学	身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象の理解を深めることを目的とする。本講義を通して、日常世界を科学の目でも見るができるようになることを目指したい。このような姿は、現在重視されている「科学的リテラシー」を身につけることへとつながるものである。授業では講義とともに、観察・実験活動やものづくり活動を行う予定である。受講生の積極的な参加が求められる。	
			身近な医学	医療の基礎的知識・医療用語の習得と生活習慣病をはじめとする代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解していく。すなわち、医療における基礎的な用語の使用、代表的な疾患についての概念、診断・検査法、治療方法そして予防法が説明できることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (24 萩原 暢子／7回) 糖尿病、血液疾患、呼吸器疾患（炎症性疾患、ぜんそくなど）、腎臓疾患、膠原病、甲状腺そのた内分泌疾患、婦人科疾患、小児科疾患などを担当 (49 安永 龍子／8回) 高血圧、心臓疾患、脳卒中、消化器がん、肺がん、肝臓・胆のう・膵臓疾患、精神疾患、頭痛・めまい・腰痛などを担当	オムニバス方式
			生命倫理	「臓器移植」「薬害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらう。具体的な個別課題は、現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、「私の生命」へのまなざし、などである。	
			心理学入門	心理学は人間の行動・心理を科学的な手法で理解しようとする学問であるが、心理学で取り扱う問題意識は、そのほとんどが日常生活で感じることや疑問に内在される。本授業では、初めて心理学を学ぶ学生を対象に、心理学について、日常生活での問題意識を例に挙げながら、基礎的な心理学理論（記憶、動機付け、ものの見方、発達、ジェンダー・セクシュアリティ、態度変容と説得、集団、パーソナリティ、感情、臨床）および研究法について解説し、心理学の幅広い分野について十分な知識を身につけ、実生活に応用する力を身に着けることを目標とする。	
			A I とデータサイエンス入門	本科目では、近年、進歩が著しく、ビジネスにも広く活用されつつあるAIと、AI技術に密接に関連するデータサイエンスの基礎について学習する。AIについては、人間の知能とどう違うのかを主眼におき、特に、コンピュータで言葉を扱う技術、自然言語処理について学ぶ。また、データサイエンスについては簡単な統計の知識やデータを可視化する方法を学ぶ。身につけた知識を実習で体感できるよう、プログラミング演習も行う。最後に社会的な問題にも触れ、人間とAIが共存する社会について考察できる知識を養うことを目標とする。	
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	英語理解 I	本科目では、リーディングに重点を置き、仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、簡単な英語の文章を効率よく読む練習からスタートする。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行う。最終的には、「英語表現 II」での学習も併せ1年間で、抽象的な話題や自分の専門分野についても、高度な内容の英語の長文を理解し、複雑な文章の含意を把握できるようになることを目指す。	
			英語表現 I	本科目では、基本的な英語ライティングの技術を習得することを目的としている。基礎的な文法、スペリング、句読法、などを復習し、パラグラフの規則を覚えることにより、伝えたいと思う内容を表現することが英語で出来る能力を身に付けるため、「書く」練習を積み重ねる。「英語表現 II」と併せ1年間の積み重ねで、最終的には、自分の専門分野の技術的な議論も含めて、複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作り、参考文献を引用しながら、それらを組みあわせ、まとまったエッセイを書くことができるようになることを目指す。	

共通教育科目 基礎科目 外国語科目	英語理解Ⅱ	本科目では、「英語表現Ⅰ」での学びに引き続き、リーディング能力の向上を目的としている。仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、簡単な英語の文章を効率よく読む練習からスタートする。平易な英語のテキストを多く読むことにより、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行う。最終的には、抽象的な話題や自分の専門分野についても、高度な内容の英語の長文を理解し、複雑な文章の含意を把握できるようになることを目指す。	
	英語表現Ⅱ	本科目では、「英語表現Ⅰ」での学びに引き続き、英語ライティングの技術向上を目的としている。基礎的な文法、スペリング、句読法、などを復習し、パラグラフの規則を覚えることにより、伝えたいと思う内容を表現することが英語で出来る能力を身に付けるため、「書く」練習を積み重ねる。最終的には、学生自身の専門分野の技術的な議論も含めて、複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作り、参考文献を引用しながら、それらを組みあわせ、まとまったエッセイを書くことができるようになることを目指す。	
	日常の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、日常的内容に関するリスニング力を鍛える。同時に、ペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられた身近なトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	旅行の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、海外旅行に必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	留学の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、留学やホームステイに必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	おもてなしの英会話	授業中、学生は旅行代理店、ホテル、レストランなど観光産業で行われる会話や路上で旅行者を助けるための会話に必要なリスニング力および会話力を、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまでペアおよびグループワークを通して英語のみで鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	ビジネス英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、ビジネスに必要な内容に関するリスニング力およびスピーキング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	歌って覚える英語表現	英語がうまくなりたいと思いながら、手段がわからないという学習者に対して、英語を身近に感じながら、自然に英語表現の習得を目指す実践的授業である。歌を唄うという演習を通して、英語独特のリズムやイントネーションが無理なく矯正されることに加え、歌詞の聞き取りにより、音声独特の連結などを積極的に聞き取るようになる態度を涵養する。さらに、歌詞理解を図ることによって、異文化理解を促進することが可能となる。また、歌詞を覚えることで、より多くの日常的な英語表現を習得することを目指す。	

共通教育科目 基礎科目 外国語科目	英語リスニング	この授業では、リスニング力を向上させることに重点を置いている。会話、YouTubeクリップ、インタビュー、歌、短い会話など、さまざまな短いリスニングテキストを聞くことでまずは英語のリスニングに慣れ、その後、より長く、かつより速い会話でも、主要内容や詳細を理解でき、一般的な単語の語彙を増やして自分の意見を言ったり書いたりすることができるようになる練習を行う。また、英文の要約や、英語でのディスカッション、創作などを個人、ペア、グループで行い、自信を持って英語を聴くことができるようになることを目指す。	
	実用英語基礎	本授業の目的は、実用的に英語を使えるようになるための、最低限必要な基礎知識の習得することである。本授業では、辞書の使い方や英語の基本文法を初歩から学習しなおしたり、音読や筆写という基礎的な訓練なども取り入れる。同時に、教材を通してTOEIC (R)に出題される基本的なビジネス英語を理解できるようにするために、演習を進める。最終的には実際のTOEIC (R)にチャレンジできるよう、上記の目標達成を目指す。	
	身近な英文法	英語学習につまずいた経験や苦手意識のある学生、基本的な理解ができているが学び直しをしたい学生を対象に、外国語としての英語の理解に必要な英文法を基礎から学びなおし、習得することを目的とした授業である。具体的には、基本の5文型をはじめ、構文、不定詞、時制、仮定法などの基礎的な英文法の習得、文法構造の理解、素早い正確な英文読解のための英文法を学ぶ。また、学んだ英文法・語法の知識を生かした表現とスムーズな読解の能力を身につける。	
	英語実践 (4技能) I	1回45分×26回の実践的な授業を通して、Listening, Reading, Writing, Speaking の4技能を高め、英語コミュニケーションの向上を図る。会話、インタビュー、ゲーム、アクティビティを通して、教員やクラスメートが話す生の英語に触れ、英語を使う努力を定期的、継続的に行うことで、英語は道具であることを認識し、英語に対して積極的な態度で臨むことができるようになること、ボキャブラリーを増やしつつ、正しい文法が必要であることをより深く理解し、英語を使った効果的な表現ができるようになることを目指す。	集中
	英語実践 (4技能) II	英語実践 (4技能) I に続き、1回45分×26回の実践的な授業を通して、Listening, Reading, Writing, Speaking の4技能を高め、英語コミュニケーションの向上を図る。会話、インタビュー、ゲーム、アクティビティを通して、教員やクラスメートが話す生の英語に触れ、英語を使う努力を定期的、継続的に行うことで、英語は道具であることを認識し、英語に対して積極的な態度で臨むことができるようになること、ボキャブラリーを増やしつつ、正しい文法が必要であることをより深く理解し、英語を使った効果的な表現ができるようになることを目指す。	集中
	ドイツ語	読み物・作文、やさしい会話、ビデオ教材の使用などを通じてドイツ語を話す人々の文化や思考法を学ぶ。また、初級文法の知識を身につけつつ、ドイツ語の文章を正確に読めるようになることを目標とする。具体的には、教科書の内容に沿った文法課題、教科書・配布物による文章読解、作文、視聴覚教材によるドイツ文化の学習、ペア・グループワークによるドイツ語会話やディスカッション、またその練習成果としての口頭発表に取り組む。ドイツ語圏の文化や諸事情に触れ、異文化への関心と理解も深めていく。	
	フランス語	基礎的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の修得を目指す。基礎的なフランス語の発音・聴き取り・文法・語彙の規則を学ぶ。基礎的なフランス語の表現・成句・文法を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す。また、フランス語特有の文構造に慣れ親しみ、文全体を理解する。文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シュミレーション」など、コミュニケーションのための言語使用や文法能力を身につける。	
	スペイン語	本科目では、基礎的な文法事項を学ぶと同時に、様々な生活場面を題材とした会話表現を練習することにより、スペイン語の基本的な運用能力、コミュニケーション能力を身につけることを目指すと同時に、それをおしてスペインやスペイン語圏の文化に親しむ。具体的には、自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった初歩段階から実践段階の練習をする。同時にスペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化にも触れていく。	

共通教育科目 基礎科目 外国語科目	アラビア語	「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。	
	中国語Ⅰ	本授業は演習形式の中国語初級授業である。半年30コマの学習を通して、受講生に正確な発音、簡単な会話を習得させると同時に中国文化、現代中国事情も把握してもらうのが本授業の目標である。また、学習を終えた時点で、多くの受講生が中国語検定試験準4級に挑戦できるように指導することも目標の一つである。授業計画として、簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。	
	中国語Ⅱ	本授業は演習形式の中国語中級授業である。半年30コマの学習を通して、初級で学習した中国語文法と単語をしっかりと消化した上で、日常会話をさらにグレードアップし、中国語検定試験準4級合格を目指すことを目標としている。授業計画として、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。	
	中国語Ⅲ	本授業は演習形式の中国語上級レベルの授業である。初級と中級で学習した内容をベースにし、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すのではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指すことも本授業の目標の一つである。授業計画として、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。	
	コリア語Ⅰ	日本と朝鮮半島は長い交流の歴史を共有してきた。とりわけ近年、文化的交流が急進展する中で、お互いの言語を学ぶ人が急増している。ハングル（韓国文字）は非常に科学的かつ合理的な文字である。またコリア語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語でもある。本科目では、コリア語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけ、単に知識だけを積み上げるのではなく、学んだことを使えるようにすることをめざすとともに、言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解する。	
	コリア語Ⅱ	コリア語Ⅰで学んだことをより発展させ、中級レベルの語学力を習得する。ヒアリング、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力を高め、多様な表現力を学んでいく。具体的には、グループによる参加型の学習法を活用し、中級レベルの日常会話に必要な文法と会話力のレベルアップをはかる。また、韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や映画、音楽などに関する情報も一緒に学んでいく。	
	コリア語Ⅲ	コリア語Ⅰ・Ⅱで学んだことを再確認し、重要な全ての文法をマスターする。辞書さえあれば、新聞、雑誌を読んだり、インターネットでハングルのネットサーフィンを楽しめるほどの読解力を持つとともに、ハングルで日記やメールを書いたり、会話をなめらかに行うことができるようにする。韓国のウェブに掲載している情報や雑誌のコラム、新聞のニュース、Kポップの歌詞など多彩な資料を活用しながら、社会生活や仕事にも役立つようなより実践的な語学力、会話力を獲得する。	
	海外研修（語学）Ⅰ	韓国語の語彙、文型、会話、聴解、読解等の学習を通して運用能力（初級～中級）を高め、韓国語でコミュニケーションができる語学力を身につけること目標とする。夏期休暇期間中の約3週間（授業は計60時間）、韓国の協定大学にて実施する。語学のみならず、韓国の歴史、文化、生活様式や社会事情への理解を深めるとともに、韓国大学生との交流活動を行い、実践的に学ぶ。初日に語学レベルを測るプレースメントテストを行い、授業は、韓国語演習（48時間）、韓国語特別講義（6時間）、韓国文化講義（2時間）、韓国文化の実習又は見学（4時間）で構成される。	集中

共通教育科目 基礎科目 外国語科目	海外研修（語学）Ⅱ a	春期休暇中にオーストラリア又はアメリカの協定大学において英語の集中授業を受講する。英語のスピーキング、リスニングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得すると同時に、訪問国の歴史、文化、自然、社会等への理解を深め、異文化への適応力や国際性を身につけることを目標とする。オーストラリアではSpoken English, Oral Presentation, Australian Studies等、アメリカではEnglish Conversation, Presentation, Discussion, American Culture等の授業で構成される。	集中・共同
	海外研修（語学）Ⅱ b	夏期休暇中に英国又はカナダの協定大学において英語の集中授業を受講する。英会話を中心としたコミュニケーションスキルと総合的な英語運用能力を向上させることを目標とする。さらに、訪問国の歴史、文化、生活、社会事情等の理解を深め、異文化の中で積極的に行動できる力と国際的な視野を身につける。英国ではCommunication Skills, British Culture, Presentation等、カナダではOral and Written English Communicaton, Conversational Idioms, Canadian Culture等の授業で構成される。	集中・共同
	日本語講読Ⅰ	日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけることをめざす。	
	日本語講読Ⅱ	日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を確実に身につける。	
	日本語表現Ⅰ	日本語を母語としない留学生が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを既習の日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。	
	日本語表現Ⅱ	日本語を母語としない留学生が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。	
	日本語特講Ⅰ	日本語を母国語としない留学生を対象に、日本における様々な文化や社会問題について、毎回様々な資料を読み現状を理解させる。その後、インタビュー、アンケート調査や文献調査を行い、そのテーマについて発表させる。授業内でのディスカッション、ディベートなどの自主的な協同学習活動を通してそれぞれのテーマについての認識を深めさせる。これらの言語活動を通じて日本語コミュニケーション能力、運用能力も身につけられるようにする。また、文法・語彙などのタスク、クイズを実施し、豊かな表現も身に付けられるように指導する。	
	日本語特講Ⅱ	日本語を母国語としない留学生を対象に、日本における小説、論説文、俳句、詩などの多様な文章を読解したり、テレビ番組、ビデオ、落語などを視聴したりする。これらの活動を通して、日本で日常使われている多様な表現を学び、同時に現代日本社会の諸問題を考えさせ、タスクを行う。それを基に自分の意見をまとめ、わかりやすく相手に伝える演習を行う。論理的に文章にまとめることで書く力も養う。また、文法・語彙などのタスク、クイズを実施し、表現をさらに豊かにできるように指導する。	

基礎科目	リテラシー・スポーツ科目	文章作成法 I	学術的な文章作成の基礎を身につけることを目標とする科目である。まず学術的な文章を読み込むことによって、文章の特徴を体で理解する。次に読み込んだ文章をモデルにすることで、類似した文章を書く力を養う。模範となる多くの文章のインプットにより、自ら書く能力及び指摘された修正理由を理解する能力を獲得する。聞き手を想定して、聞き手に合った読み方を考え暗記するまで読み込むことや、概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる練習を繰り返すことなどで、表現力を高める。	
		文章作成法 II	学術的な文章作成の基礎を身につけて、自分の考えを書き言葉で論理的に表現できるようになることを目標とする科目である。模範的な学術文章の読み込みと書きとりを行いながら、学術的な文章の特徴を分析する。その後、学術論文の文章を利用した音声教材を作る作業や発表を通して、学術的な文章を体得し、論文を書くための表現力を高める。音声教材に利用する文章に対しては、段落ごとに概要を整理して、効果的に伝えるための音読練習を繰り返すことで、学術論文の文章の特徴を体で理解する。	
		体育講義	「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。 ・現代の健康に関する問題について理解する。 ・スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。 ・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。 ・発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。	
		体育実技	心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。 ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。 ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。 ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、仲間と強力し切磋琢磨し合う能力の向上を図る。	
		健康スポーツ演習	スポーツの実践を通して、体を動かす楽しさや爽快感を知る。その上で、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。 自分自身の健康や体力にも目をむけ、生活をより健康的に送る力を身につける。 ・様々なスポーツを経験し、運動の楽しさを実感する。 ・スポーツを通して、他者と積極的に関わりを持つ。 ・スポーツテストにより、自分自身の健康と体力について考える機会とする。	共同
基礎科目	カトリック教育科目	キリスト教学	本学の教育理念にとって、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。この科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。	
		キリスト教音楽概論	詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われ、音楽を通してキリスト教精神を理解することを目標とする。時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介し、さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じとるため、聖歌を歌う練習も授業内でを行い、キリスト教文化に親しむとともに、キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解する。	

共通教育科目	基盤科目	カトリック教育科目	聖書とキリスト教	新約聖書の福音書に描かれるイエスの言葉と行為、また、ユダヤ人の文化を通して、イエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的社会的背景を考慮しつつ、キリスト教成立以前のありのままの人間としてのイエスを探究する。当時の人々にとってイエスが信仰の対象となるに至る過程を、ユダヤ社会の連帯、ユダヤ人の殉教の伝統、当時の政治状況やイエスの裁判などから、当時の文化との関係において理解し論じることを目標とする。授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、参考文献を調べて積極的に授業に参加すること。	
			キリスト教と日本文化	日本のキリスト教を、文学・文化・歴史の観点から捉え、とりわけカトリック作家遠藤周作の作品を中心に、テキストを批評する力を身につけることを目標とする。キリスト教を題材とした日本近現代文学から、作品の背景にあるキリスト教の歴史や諸問題を学ぶとともに、作家個人の信仰の葛藤など内面的問題を想像力を持って理解する。さらに、日本のキリスト教の歴史や文化の問題について、日本における西欧文学の受容、近代日本文化とキリスト教の関係、クリシタンなど、日本のキリスト教の歴史や文化について、現代の問題に関連させ批判的な視点からも考察する。	
			キリスト教思想	混迷した現代社会にあつて、自分自身や他者をどのように理解し生きていけばよいのか、キリスト教思想を通して考える。授業では、トマス・アクィナス、渡辺和子、本田哲郎、チェスタトン、ハリール・ジブラーン、神谷美恵子らによるキリスト教思想の著作や教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』などを紹介しながら、現代社会の問題を考察するとともに、キリスト教思想に触れることで自分を見つめ直し、家族・友人・学校・地域社会などのコミュニティーの中で支え合うことの重要性を自覚し、自分と他者の独自性を尊重しつつ互いを受容できる良識を身につけることを目指す。	
			キリスト教美術	4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。本科目では、講義形式でその基本的な知識を習得する。主にゴシック時代から18世紀について、絵画を中心とした代表的な作例を鑑賞し分析することにより、主要な主題と基本的な図像を学べるようにする。旧約聖書・新約聖書・聖人についてもまんべんなく触れる。また、キリスト教美術の歴史についても適宜解説し、基本的な流れを把握してもらおう。以上を通して、未知の作品に出会ったときにも、独力である程度主題を推測できる力を養うことを目指す。	
			キリスト教音楽	本授業では、古くから多くの作曲家によって手がけられ現代にまで続いているミサ曲を、中世からバロック時代にかけての変遷やJ.S. バッハ作曲の《ロ短調ミサ曲》、更にモーツァルト、ベートーベンなどの古典派のミサ曲までを範囲に学ぶ。オラトリオのテキストの日本語訳と音楽との関連性を理解するとともに、ヘンデルの音楽の特徴や他の作曲家（特にJ.S. バッハ）の音楽との比較を考察し、ミサ曲と典礼との関わりやバッハの音楽の宗派を超えた普遍性などについても論じ、自己の音楽的視野を広げ、ミサ曲に対する学びを通してキリスト教に親しむことを目的とする。	
			ライフキャリア形成科目	ライフキャリア形成科目	ノートルダム学
			女性とライフキャリア	本授業では、学生生活を終えたあとの長い人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身につけ、考える力を養成することを目的とする。特に職業キャリアと家庭生活の両立は、男性以上に女性にとって大きな人生の課題として立ちはだかるだろう。そのために、あらゆるライフキャリアの可能性を検討し、予測される課題にどのように対処できるのか検討することは重要である。また、生きる目的のひとつに社会活動に参加するというものがあることを知り、自分や自分の家族のためだけでなく、社会に貢献するために自分はなにができるのかを考える。	

共通教育科目	基礎科目 ライフキャリア形成科目	子育てとワークライフバランス	現代日本の子育ておよび女性のライフキャリアの現状や課題について基礎的な知識を得るとともに、企業から見た女性の労働とワークライフバランス、仕事と子育ての両立、教育現場、地域社会における活動、経済的自立などについて、外部講師による「母」「父」「企業」「メディア」等、多様な視点からの講義を通じて学び、女性の生き方を深く考察する。また、実際に子育てと仕事の両立をしている講師から話を聞きくことで、受講生自身の生き方を考えることを目標とする。日頃から新聞をよく読み、現代日本の子育てを取り巻く環境に関心を持つておくこと。	
		ホスピタリティ入門	「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。ホスピタリティの語源、ホスピタリティと文化、地域や文化・文明による差異などを考察する。パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回小レポートによりホスピタリティを考察する。	
		キャリア形成	大学生活の中盤を迎える2,3年次生を対象に、コミュニケーションスキルを向上させながら、大学生活の振り返りを行い、今後のキャリアプランについて考える科目である。そのために、基礎的なコミュニケーションスキルについての学修をした上で、自己の振り返りや職業社会の理解など、キャリアにかかわる学修を少人数のグループワークを中心に行い、コミュニケーションスキルを高めながら、キャリアに関する深い理解と、今後のキャリアプランの作成をする。	
		キャリア形成ゼミ	社会で必要とされる力を社会人基礎力と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動する「場」をゼミナールとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。	集中
		短期インターンシップ	事前研修は、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施し、インターンシップの概要と心構えを学び、実習先の研究およびその成果についての発表と目標の立案を行う。その後、就業体験を通して、早期に自己の職業適性や将来設計について考え、その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。さらには、事後研修での就業体験で学び得た事の整理を行い、今後の行動計画の立案・発表を通して明確なキャリアビジョンの確立及び学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ学生生活が出来るようになることを目的とする。	集中
		インターンシップ	職業現場での就業体験プログラムを通して、働くことの価値形成を図る実践授業である。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識を育成し、職業選択の明確な基準軸を養成するとともに、人間性(思いやり、公共心、倫理観)を高め、基本的な生活習慣(基礎的なマナー、時間管理)を身につけることを目標とする。就業体験を有意義にするための事前、事後指導も併せて行う。さらに体験成果の発表を課すことで、社会人としての基礎能力をも養成する。	集中
		海外インターンシップ	海外の職場で実際に英語を使って仕事をすることを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、積極性や責任感、キャリア意識を身につける科目である。アメリカ西海岸、オーストラリア、ニュージーランドの三カ所から参加者が選んだ国でのインターンシップを通して、現地の生活、文化、社会事情等への理解も深め、異文化を理解する積極性と国際的な視野を身につける。なお、各自の英語力に応じて、インターンシップ先として選べる企業、学校、団体等が異なり、英語力の目安はTOEICの点数で判断する。	集中
社会情報連携科目	社会情報基礎科目	社会情報概論	本科目は、この課程における基盤となる科目であり、社会情報とは何かを学ぶ科目である。情報の成り立ちや情報理論の確立、コンピュータやOS (Operating System) の進化、またそれに伴う、情報の扱い方の変化から、人間の文化や倫理のあり方を概観し、情報を扱うものにとって必要な知識を概観するとともに、これらについて学ぶことを通して、今後の社会のあり方を考える。さらに、AI (人工知能) やクラウドシステム、メタバースなど最新の情報を扱うための用語や機器についても解説し、本課程で学ぶための基礎知識を得る。	

社会情報連携科目	社会情報基礎科目	社会情報基礎演習Ⅰ	<p>この科目では、大学での学びの基礎的な構えを、演習の形式で習得することを目的とする。社会情報概論の授業で扱う内容と歩調を合わせ、そこで学んだことも生かしながら、レポートの書き方、引用の方法、論を立てるために問いを立てることなど、大学生として欠かせない力がつくよう繰り返し演習する。これらは、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での課題解決や研究活動に必要な不可欠な技能である。</p> <p>さらに、将来を見据え、キャリア教育を段階的にスタートし、社会情報を学ぶことが具体的にどのように進路に結び付くのかについても探求していく。</p>	
		社会情報基礎演習Ⅱ	<p>この科目では、社会情報基礎演習Ⅰで学んだことを生かし、大学での学びの基礎を演習の形式で習得することを目的とする。社会情報概論で学んだ情報に関する基本的な知識、知的財産権の扱い方、情報倫理を中心に、情報を活用する際に必要と思われる知識を習得する。大学での論文作成（データの分析と考察を含む）や論文発表に使えるレベルの力を、演習を通して実践的に身につける。さらに、企業や社会において情報がどのように扱われ、人々の生活に役立っているかを探求し、自分がどのような職業に就きどのようなライフキャリアを形成しようとするのか、卒業後の姿を見つめることができるようにする。</p>	
		社会情報発展演習Ⅰ	<p>この科目では、1年次の社会情報基礎演習Ⅰ・Ⅱで身につけたことをベースとして、論を立てるために必要な研究法や調査法を学ぶ。情報の仕組みの理解に必要な数理を理解するとともに、質問紙調査法や質的研究法など、適切な方法でデータを集め、立てた問いの答えを仮説で導き、その根拠を検証するための方法を学んでいく。そのために必要なパソコンソフトの操作法も演習を通して確実なものとする。さらに、現代の社会におけるさまざまな事象から自分なりの視点で課題を見だし、そこにどのような背景があるのかを学び、思考を巡らせて、課題解決への手がかりを探求する。</p>	
		社会情報発展演習Ⅱ	<p>この科目では、社会情報発展演習Ⅰで学んだ質問紙調査法や質的研究などの方法を用いて簡単な課題で演習し、実際に仮説検証を行う。これら演習を続けていくと同時に、国際日本文化、生活環境、心理、教育・子どもなどの領域を意識しつつ自らの研究のベクトルをどこへ向けていくのかを見定め、各学科の協力の下で研究法についての知識も得ながら、次年度に取り組み社会情報演習の指導教員を選ぶ段階へと進む。さらに、これまでに学んできた社会情報の知見を基に卒業後の具体的な進路について考えを深め、大学生活の残り2年の設計図を描き、そのためにどのような学びが必要となるか、自分自身が主体となって探求する。</p>	
		情報の科学と倫理	<p>現代において人々はスマートフォンを肌身離さず持ち歩くようになっているが、便利な電子機器が当たり前のように身の回りに溢れているがゆえに、それらがどのように動いているかなどを気にすることは、少なくなってきた。</p> <p>本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを知るとともに、扱われる情報の価値や人権問題にも目を向け、基礎的な情報倫理の知識も得ることを目標とする。</p>	
		哲学入門	<p>自分が当たり前だと思い込んできたことや世の中で常識とされていることをあらためて問い直し、深く考えること。これが「哲学する(philosophize)」ということである。この意味で、大学では、どんな学問を専攻するにせよ、「哲学する態度」が求められていると言えるだろう。この授業は、哲学の思想や概念を講義することに終始せず、大人とはどういう人のことか、社会とは何か、学ぶとはどういうことか、愛するとはどういうことか、等々、誰にとっても身近で根本的なことがらを問い直し、深く考えることをとおして、「哲学する態度」を身に付けることを目的とする。</p>	
		インターネット社会論	<p>インターネット環境は1990年代以降、急速に世界中に広まった。この新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。そこでまず、コンピュータとインターネットの発展の社会的背景とテクノロジーについて学ぶ。その後、LINE, twitter, Facebookに代表される SNS (Social Networking System) の発展、さらには人工知能(AI)の発展に寄与している要素を考える。現在のデジタル社会を正しく考察できる知識の習得を目標としたい。</p>	

社会情報連携科目 社会情報基礎科目	ICTビジネス論	本科目では、近年、進歩が著しく、ビジネスにも広く活用されているAIを中心に、ICTビジネス（特にネットビジネス）の基礎技術及び最新知識を学ぶ。日頃何気なく使っている検索エンジンやSNSツール、ショッピングサイト等の様々なアプリケーションやソフトウェアはICT技術の発達とともに我々の生活に欠かせないものになっている。これらについて、その基盤技術や変遷を学び、未来の社会の姿を考える。新聞やビジネス誌で頻りに登場するIoT, DX, 機械学習, データサイエンス等のICTに関する用語についても実例を交えてわかりやすく解説する。ICT技術をより身近に感じ、今なお進化するデジタル社会に必要な不可欠な知識や発想を身につける。	
	暮らしの統計学	統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても必要とされている。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。具体的には、統計データの種類や集計法、グラフの種類と特徴、統計データの代表的な指標、平均値の比較と連続変数の関連性を理解したうえで、問題解決のために必要な統計のデータに対して適切な手法で分析を実施し、それによって得られた結果を文章にまとめて、伝えることができるようになることを目標とする。	
	AIとデータサイエンス	本科目では、「AIとデータサイエンス入門」を発展させ、ビジネスにも広く活用されつつあるAIと、AI技術に密接に関連するデータサイエンスについてさらに深く学習する。AIについては、人間の知能とどう違うのかを主眼におき、特に、コンピュータで言葉や画像を扱う技術、自然言語処理について詳しく学ぶ。また、データサイエンスについては簡単な統計の知識やデータを可視化する方法を学ぶ。身につけた知識を実習で体感できるよう、プログラミング演習も行う。最後に社会的な問題にも触れ、人間とAIが共存する社会について考察できる知識を養うことを目標とする。	
	情報技術リテラシー	国家の社会基盤となりつつある情報技術に対して、一定の知識・技能を身につける科目である。国家試験である「情報技術者試験：ITパスポート」の技術水準をガイドラインとし、IT（Information Technology）を活用する人材として備えておくべき知識と技術の獲得を目標とする。コンピュータのしくみ、ソフトウェアとハードウェア、情報基礎理論、データベース技術、インターフェイスとマルチメディア、ネットワークシステム、情報セキュリティなどの技術・知識を演習によって問題を解決しながら習得できるようにしていく。	
	プログラミング演習	プログラミング言語 JavaScriptを利用して、プログラミングやアルゴリズムの基本を学ぶ科目である。基本制御構造として、順次、条件分岐、繰り返し処理を含むプログラムを書くことで、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。オブジェクト指向プログラミング、フォーム部品との連携、アルゴリズム、動的なWebコンテンツなどを扱う。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していくことを目標に、論理的・創造的な思考やプログラム作成の技術を養う。	
	アルゴリズム基礎	コンピュータに実行させる処理手順を表現するアルゴリズムの記述に関して、基礎となる概念を学ぶ科目である。アルゴリズムとは何であるかを概観したのち、データ検索やデータの並べ替えのアルゴリズムのような基礎的なものから、日本語と英語の自動翻訳のアルゴリズムのような応用分野まで、幅広い分野のアルゴリズムを具体的に学ぶ。たとえば、データ検索のアルゴリズムの中にも、線形探索法、二分探索法、ハッシュ法などさまざまなものが存在し、それぞれの計算量が異なることなども学び、プログラミング技術を高める基礎知識とする。	
	情報処理	インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）をコミュニケーション手段ととらえ、活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につける科目である。電子メールやWWWを中心とした各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割、電子メールの配送のしくみの理解、情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解など、ネットワークリテラシーを高めるための知識も身につける。Webページの実習では、HTMLとCSSを用いてページを記述し、情報発信力を高める。さらに、AIの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。	

社会情報基礎科目	SNSコミュニケーションスキル	本科目では、SNS(Social Network Service)の特性を知り、ネット上でのコミュニケーションの方法を考え、ネット上のトラブル回避や相談機関の活用の方を身につけ、どのような機器を扱う場合であっても必要となる、コミュニケーションに関わる事柄を考えることを実践的に学んでいく。そのためにインターネットやSNSの仕組みや内容を概観し、社会におけるルールや法律などを踏まえてその特性を理解し、望ましいネットコミュニケーションのあり方を考え実践する。また、望ましいコミュニケーションを行うための認定資格にも授業内でチャレンジしていく。	
	プレゼンテーション概論	本科目は、実社会でのプレゼンテーションの方法論を把握し、社会における企業などの現場で応用することができるようにするための素地を養うことを目的とする。 企業などの実社会でのプレゼンテーションに関する準備、練習の方法を理解し、理解したことを直ちに実践することを通して、具体的な方法の把握とともにプレゼンテーション実務に関する基礎を習得する。具体的には、1つのプレゼンテーションを、順を追って実践しながら学習することを通して、社会生活におけるプレゼンテーションに関する知識とプレゼンテーション技能の向上を目指す。	
社会情報連携科目	アカデミック・ライティング	大学の授業で課されるレポート・論文とは何かを知り、よりよいレポートが書けるようになることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、文章を書く自信をつける。授業内ではグループワークを通して課題に取り組み、自分の文章を相対化する機会を多く設ける。実践を通して技術を身につけるため、授業時間外にも課題に取り組む機会を多く設ける。最終のブックレポートでは、講義内容を活用して論理的な文章が書けているかを確認する。	
	情報演習 I a	大学での課題解決、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、研究活動に必要な不可欠なPC技能を身につける科目である。具体的には、コンピュータシステムの基本的な操作(電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など)や、レポートや論文作成に必要なOfficeツール(日本語文書作成ソフト、表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフト)の基本的な概念や操作、「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングなどを対面授業での実習を通して習得する。	
	情報演習 I b	大学での課題解決、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、研究活動に必要な不可欠なPC技能を身につける科目である。高校までに習得したことの確認も含めて、コンピュータシステムの基本的な操作(電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など)や、レポートや論文作成に必要なOfficeツール(日本語文書作成ソフト、表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフト)の基本的な概念や操作、「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングなどを習得する。	
	情報演習 II	大学や企業・組織で日常的に使われているOfficeツール(日本語文書作成ソフト、表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフト)に関しての応用スキルを習得し、社会で必要とされるIT応用力を養うことを目的とした科目である。特に表計算ソフトの利用に関しては、各種関数の活用、複数のシートの操作、ユーザー定義の表示形式、高度なグラフの作成、ピボットテーブルの作成、データベースの活用までを学び、データサイエンスの入り口としての統計の基礎力も身につける。	
社会情報実践科目	プログラミング実践	この科目では「アルゴリズム基礎」で学んだ基礎知識を元に、データの可視化・視覚化のために自分でオリジナル・プログラムを書くことを学ぶ。ビッグデータが溢れる現在、それを読み解き、問題解決に役立てることが重要視されている。これを背景に、データを画面上でいつもとは違う視点で見せるためのプログラミングを行う。アートプログラミングの挑戦など、プログラムの制作を通して、創造性を発揮する学びを提供する科目でもある。扱うデータは幅広い分野から自らが選択することで、学習者が興味のある学問分野のデータの可視化を通して、プログラミングを学ぶことができる。	

社会情報実践科目	社会情報連携科目	プレゼンテーション演習	数多く実践練習をすることを通して、望ましいプレゼンテーション技法を身につける。効果的なプレゼンテーション技法を習得するために、口頭表現（論理表現、音声表現）や身体表現についての基礎を学習し、事前調査、聴衆分析、ストーリー作り、適切な用語の選択について実践的に課題に取り組み、実際にプレゼンテーションを行う。また、他者にコメントをすることを通して、自己のプレゼンテーションを振り返り、工夫を凝らして、聴衆にとって効果的なプレゼンテーションにすることができること、自己課題を認識し、高度な技能を身に付けることを目標とする。	
		話し方と自己表現	本科目では、コミュニケーション関連の知識を深めるとともに、実践プロセスを通して、人前で話すことを含めた応用可能なコミュニケーション能力を向上させ、最終的に、実社会において自信をもって話せるようになることを目指す。そのために、まず、話し方や自己表現に関する知識を高め、現代社会におけるコミュニケーションの重要性を理解する。次に、話し方の基礎学習を行った後、大学でのプレゼンテーション、職場でのプレゼンテーションなど、状況に合わせた適切な表現方法について、個人・グループ・クラス全体で考察し、あるべきコミュニケーションの形を探っていく。考察した内容を実践的に確認するために、さまざまな状況設定で練習、実践、振り返り、改善を繰り返すことで、スキルを身につけていく。	
		社会情報フィールド研修	この科目では、他の授業で学んだ情報の活用やデータサイエンスの基礎、データの扱い方を生かし、社会の様々な場所で活用されているデータサイエンスの実例を自ら発見し、大学の外に出て、その利活用の場で学ぶことを目的とする。企業や団体の協力を得て、マーケティングや、文化調査、教育調査、心理学における調査などを実際に行うことで情報を活用する社会を実感し、自らの社会における情報の活用役に役立てていく。 事前に守秘義務や守るべき事項についても学び、倫理に沿ったデータの扱いができるように指導を受けながら研修を進める。	
		社会情報インターンシップ	これまでの授業で得た社会における情報の活用やデータサイエンスの基礎、データの扱い方を生かし、情報通信やネットワーク関連の企業、公的機関、教育機関などにおいてインターンシップを行う。情報活用やデータサイエンス、AIの働きなどに特化した場所でのインターンシップを通して、現代社会の中で情報がどのように活用され、データの扱いなどがどのように留意されているのか、ビッグデータの扱いがどのように行われているのかなどを学び、社会に貢献する態度を養うとともに自分の卒業後の姿を具体的に想定できるようにしていく。	
		社会情報海外インターンシップ	これまでの授業で得た社会における情報の活用やデータサイエンスの基礎、データの扱い方を生かし、日本より進んでいる海外のデータ活用やAI技術の活用などを、インターンシップの形で海外の企業や団体を舞台に学んでいく。この海外インターンシップに参加することにより、情報のグローバル化を実際に肌で感じ、既存の知識のみにとらわれず、広い視野を持った人間になることを目指し、将来の姿を具体化していく。この授業の参加には相応の英語力が必要となり、各自の英語力に応じて選べる企業、学校、団体等が異なる。英語力の目安はTOEICの点数で判断する。	
		子供のネット安全教育の理論と実践	子供たちのネット利用において、詐欺にあう、ネットいじめ、個人情報流出など様々な問題が起きている。本科目では、京都府消費生活安全センターと協力し、特に消費者教育の観点から、子供自らが考えて安心してネットを利用できるよう、小学校等での啓発プログラムを開発し、実践することを目標としている。具体的には、現在起きているネットの安全使用に関する問題や子供たちにとって危険な状況を知り、発達段階などを心理学で学び、学校現場など状況に合わせた啓発プログラムを開発し、実践し、その評価を行い改善するまでの一連のプロセスを学ぶ。	
社会情報展開科目	国際日本文化領域	国際日本文化論	この授業の目標は、国際的な視点から日本文化の諸相を捉えようとするものである。「国際的な視点」は自他の比較によって得られるが、自他の文化を対比は優劣を判定するものではない。ここでは、日本文化の特徴や各国の文化との関係性を、相互に隣接し並存し得るものと考えた姿勢を身に付ける。また、自らと異なるものに敬意をはらい尊重する態度を養うことを目指す。具体的には、海外でリメイクされた日本の映画、日本でリメイクされた海外の映画を取り上げ、オリジナルと比較することを通して、「文化」の相違を内容と表現から考察する。	

社会情報連携科目 社会情報展開科目 国際日本文化領域	国際関係論	国際関係論入門では、国際社会に対する理解を深めるために、第一次・第二次世界大戦から冷戦後の世界まで、安全保障、外交、テロ等、戦争と平和の問題や、日本の戦争経験をもとに、市民や女性と戦争との関係、日本の外交と平和主義について学ぶ。また、SDGsをめぐって、貧困・難民問題と移民問題、環境問題を理解し、国際社会における日本の位置づけ、国際関係の変化と女性の地位の問題、グローバル化による日本社会の変化、国際協力におけるNGOや女性の役割、など、人類の直面する今後の課題を整理し、日本の役割について考察する。	
	哲学とキリスト教	キリスト教は宗教だが、その中でもカトリックは哲学と密接な関係にある。本講義では、キリスト教と哲学の関係を、キリスト教の誕生から現代に至るまでの歴史を振り返りながら考察する。キリスト教の核心にあるのは信仰であるが、それが「真理」であることを主張する限り、どのような真理なのか問われる。アウグスティヌスの思想、スコラ哲学の時代、アリストテレス、トマス・アキナス、ルネサンスと宗教哲学、ヘーゲルとキルケゴールなどについて論じ、神学と哲学の間にあるもの、信じる、知るとは何か、そこで問われる真理性とは何かを追究する。	隔年
	スピーチの基礎	聞き手に受け入れられやすい話し方についての理解を深め、スピーチに関する基礎技法と心構えを習得することを目的とする。はじめに、スピーチに関する映像の視聴を通して、望ましい話し方についてのチェックポイントをグループやクラス全体で検討し、毎回、自己課題、学習内容、意見・感想等について記録し、知識や技能向上に努める。様々なテーマや場面によるスピーチを練習したうえで、ゲストを招いてのインタビューをグループおよび受講者全員で協力して準備をして実施し、その後、振り返り及びそれに対するスピーチを行うことで、実践的に学ぶ授業である。	
	現代ジャーナリズム入門	近年、厳しい社会情勢が続く、「ニュースを読む力」がますます求められ、日常と激動する世界を関連づけて見る目（情報分析力）と迅速な対処は欠かせない。18歳から選挙権を持つこととなった今、国政や外交、経済、社会への正しい知識と理解は社会人への第一歩である。この講義は様々なニュース、取材するジャーナリズム活動を知り、「ニュースを読む・語る」を軸に、その初歩的応用（書くこと）まで学習できるプログラムである。毎回、いくつかのニュースを紹介し、その読解と取材・解説の目線を講義する。自分の意見と疑問が持て心がけてほしい。	
	情報・メディアの文化とリテラシー	情報リテラシーとは、必要な情報を適切に認識、入手、評価、分析し、課題解決の為に効果的に利用できる総合的能力のことを指し、本講義では、この能力を、インターネットなどのメディア、情報の文化を理解することを通して習得することを目指す。個人、組織、社会が直面する様々な問題を理解し、解決するために必要な情報源へのアクセス方法、インターネットなどから発信される情報の評価、地域、文化による情報流通の差異、情報を利用または発信する際の著作権などの法的制限、倫理などを学習し、現代社会に参画するために必要な知識、能力を習得する。	隔年
	図書館情報技術論	コンピュータとインターネットを構成する仕組みと技術について学び、それらによって流通する情報について理解する。様々なデータベース・情報源とそれらにアクセスするための技術および保存提供するための技術や仕組みについて理解し、図書館などの情報サービス機関または企業、公的機関などの組織で必要とされる電子情報、電子文書管理に活用できる能力を身につける。さらに、現在のネットワーク社会、情報化社会における図書館の果たす役割の理解、図書館サービスを提供する上で必要な情報システム、機器、情報セキュリティに関する知識を身につける。	
	子どもの読書とメディア	現代の社会状況や文化的背景を踏まえ、子どもの読書やメディアをめぐる諸問題や、文化における読書・メディアの位置づけを考察する。子ども向けの作品について、アニメ作品と原作の比較、絵本に込められたメッセージの理解、古典やノンフィクションの読み方など多様なジャンルについて読み込む。また、児童書についての社会的・歴史的背景、国語科教育における読書、インターネット・ゲームなどメディアの諸問題、日本の児童文化をめぐる国際的な動向などを考察し、現代社会における子どもとメディアをめぐる課題を理解することを目標としている。	隔年

国際 日本文化 領域	メディアコンテンツ表現法	現在の社会では、個人、企業などの組織のさまざまな活動において、従来の印刷メディアなどに加えて、ウェブサイト、ソーシャルメディアなどを通じた情報発信がより広範囲に行われるようになってきている。過去には一部のマスメディアのみが可能であった映像情報の発信も、現在では多くの個人、組織によっても可能となった。情報発信に携わる機会が増加するにつれて、人々がそのための技術、知識を身につける重要性が増している。本講義では、映像表現を中心として、情報を効果的かつ適切に作成し、発信する上での知識、技術を学ぶ。情報発信の企画から、特に映像表現の分析に基づいた効果的なコンテンツの作成、様々な情報メディアに最適な表現やデザイン、編集方法、著作権や知的財産権、情報倫理といったトピックを取り扱う。これらを通して、企業や公的機関におけるPRなどの様々な分野に応用できる能力を身につけることを目指す。	
	博物館情報・メディア論	博物館運営と情報・メディアとの関わり、その意義を理解する。VRやAR等メディアの発展に伴い、博物館を取り巻く環境が急速に変化しつつある動向を捉え、自分なりのメディアリテラシーを身につけ、思考・活用するための基礎的な能力を養う。具体的には、博物館の役割や活動においてどのような「情報」があるのか、メディアの発達と博物館運営、芸術とメディアの関係、「アーカイブ」をめぐる今日の諸相、メディアを活用した情報発信を学び、著作権等メディアコンテンツの諸問題も理解した上で、インタラクティブ・メディアとしての博物館を考察する。	
社会情報展開科目 社会情報連携科目	生活経済学	現代の社会や経済環境は、グローバル化、新自由主義、高度情報化によって急速に変化しつつあり、現代社会に生きる若者は、親世代とは異なる環境の中で、持続可能な社会に向けた新たな生活様式を創造して人生を設計しなくてはならない。本講義では、生活とは何か、生活と経済の関係を理解することを出発点として、良き人生をプランニングするために必要な生活経済に関する知識を習得すること、持続可能な社会を実現するために、社会の構成員としてどのように消費生活様式を選び取っていかばよいかについて考えられる力を身につけることを目標とする。	
	現代社会と家庭経営	経済の低迷や少子高齢化の進展のため、日本社会は既存の社会システムからの大転換期を迎え、この混沌とした社会においては「生きる力」と主体的な生活を営む知識の習得が求められる。本授業では、生活の基本単位である家族がより良い生活を送るための家庭経営の知識を身につけ、家族形態と機能が変化するなかで、現代の家族が抱える問題を学び、主体的に生きる消費者としての知識を習得を目指す。具体的には、生涯を見通した家計の管理能力を育成し、現代の消費者問題への理解を深め、地域社会における家族の役割や環境に配慮した家庭経営について考察する。	
	家族社会学	この授業では、ファインマン（2009）のケア理論に依拠し、現代社会が直面するケア問題を考える。まず、エスピン-アンデルセンの福祉レジーム論（2001）と落合によるアジアのケアダイヤモンド（2013）からアメリカ、ドイツ、スウェーデン、中国、日本の5カ国の育児と介護事情を受講生に調べてもらう。次に、受講生による報告をとおして5カ国間比較を行い、各国のケア事情の類似点と相違点を明らかにする。最後に、これからのケアのあり方として、個人（家族）や日本社会がどのようにかわるべきかを、持続可能な社会の構築という視点から検討する。	
	消費生活	「消費」とは人びとの欲求を満たすために財やサービス（商品）を使うことを指す。個人や家族の生活を維持・向上させる人間の行動の一つであり、現代ではその行動が社会のあり方や変化と結びついている。この授業では、消費生活に関わる知識を幅広く学び、消費者として自主的、かつ実践的に考え・行動できるための基礎的な知識を身につけることを目標とする。身近な話題から地球規模の問題までも含めて消費に関わる様々な事象を検討しながら、消費とは何か、安全・安心、豊かで持続的な消費生活を実現するにはどうすればよいかを考えていきたい。	
	ライフプランニング論	ライフプラン（生活設計）は、かつては家族を単位とした将来の経済準備とほぼ同義であった。しかし、社会や生活環境が短期間のうちに変化し続け、未婚化・晩婚化、少子高齢化などが急速に進行する現代社会において「ライフプラン」の考え方を捉えなおさなくてはならない。このような現代社会の変容を踏まえ、本講義では、ライフプランを「ライフデザイン」「生活資源」「生活リスク」の3領域をマネジメントし続ける連続的な活動とし、生活経営学の研究やその実践の成果を学びながら、人生100年時代のライフプランを描くための基本的な知識を習得することを目指す。	
生活環境領域			

社会情報展開科目 社会情報連携科目 生活環境領域	ビジネスの基礎Ⅰ	社会人として求められる一般教養，コミュニケーション力，考えるための知識をまず身につけ，次に，自分なりの考えをまとめ企画作りに入り，未来を考える力を育てることを目標とする。世界を広げるための基礎力の養成として，新聞，テレビ，映画，通信，広告などのメディアの特質とその個性，社会参加の様々な方法，ビジネスにおける情報の価値，などを学び，今後の社会の情勢，コミュニケーション力とは何か，自分たちの世代の強みを考察し，実際にテーマに沿った企画を立てることで，知識を使いこなして自分の意見を形成・発信できる力を身につける。	
	ビジネスの基礎Ⅱ	短時間に資料を読む，まとめる，発表するという授業を基本に，他者とのディスカッション，共同作業を行い，考える力とそのために必要な知識の組み立て方，話し方，聞き方，文章作成能力を総合的に育成する。さらに，新聞とネットニュースとの違い，読書の楽しさの再確認，高度なディスカッションを通じての自己確認を学び，グループでの企画書作成，そのプレゼンテーションを行う。さらに，今後の社会・企業・家庭，働き方と幸福度の関係を考察し，各自で自分の目標について改めて考えて発表することを通して，生涯にわたって学び続けるという姿勢を形成する。	
	マーケティング論	感覚的なことを上手に数値化するというのが，現在の「マーケティング」であり，本授業では，数値を読むことができる基礎を育てる。正しい情報，データを見抜き，賢い消費者になれる力を育てることを目標とし，社会におけるマーケティングとは何かということ概観する。主な内容としては，データの読み方，集め方，企業の商品開発の進め方，イメージの数値化，ビジネスチャンスはデータから発見，調査票作成，これからの時代のお金の運用などを演習的に行いながら，現在のマーケティングの課題とこれからのマーケティングの可能性を探る。	
	ソーシャルマーケティング論	従来の企業活動では見落とされがちな社会福祉に関わる仕事の「価値」について考え，改めて仕事の意義を問い直し，現代社会の問題点について考える授業である。「ソーシャルマーケティング」という新しい概念を理解するため，企業の存在意義や社会保障制度の必要性，国や公共事業体の可能性，「法人」についての知識，世界の社会保障制度とその歴史，日本の問題点などを考察する。社会が幸福になる企業活動とは，介護や保育に求められるマーケティングとはなにかなど，現代社会の事象を「自分の問題」として考え，グループディスカッションを通じて探究する。	
	女性起業論	女性が会社や組織を設立する動きが活発化している。こうした女性による企業の動機や背景，経営手法などをみると，男性とは異なる特徴が多くみられる。この科目ではこのような特徴をとらえながら，生活・福祉の分野を中心に現代社会にみられる女性起業家の実像に迫っていく。主な内容は，女性のライフスタイルと雇用環境の変化，女性起業家の事業の特徴や企業の多様な形態や企業支援策を把握し，新たなニーズに対応した商品・サービスに注目し，事業計画，経営計画をたて，社会において効果的なプレゼンテーションができるように学んでいく。	
	家庭電気・機械及び情報処理	豊かな人生を送るための基盤となる家庭生活を便利で快適にかつ安全なものにするために，家庭で使われる家電製品やガス器具・機械・情報機器に対して，その仕組みを理解し，電気・機械・情報処理などに関する基礎知識を身につけることで，それらを安全で適切に使いこなす能力を養うことを目標とする。さらに，これら機器の利用にかかわる環境負荷についても学び，循環型社会，持続可能な社会など地球環境に対する意識を高める。また，家庭科教員免許状取得を目指す場合に身につけておくべき情報技術を習得する。電気・機械分野は講義，情報分野は演習を行う。	
	服飾心理学	服の社会・心理的機能には3つあるとされる。第1は「自己の確認・強化・変容」機能，第2は「情報伝達機能」，第3は「社会的相互作用の促進・抑制」機能である。それらの機能を理解し，日常生活をよりよく営める能力を養う。被服に関する人間の行動を解明するため，現代のさまざまな現象を取り上げ，自己意識，対人認知，非言語コミュニケーション，対人行動，集合行動，ジェンダー，流行などを社会心理学的アプローチから考察する。最終的には興味のある分野について各自がテーマを定め，グループディスカッションやプレゼンテーションを行う。	

社会情報 展開科目	生活環境 領域	福祉住環境デザイン	近年科学技術の進歩は目覚しく、新技術の導入ため住まいの造りは変わり、設備器具などが次々と開発される一方、人間の営みは長い年月の間に営々と築きあげられてきたものであり、時には人がモノと均衡がとれない事態も生じ、人側に障害が表れ安全性が脅かされる場合があるため、本来人間が持つ機能や特性を活かした住宅のあり方が求められる。本講義は、建築的側面からの人間工学について、人間の身体的、動作的、心理的、生理的特性に沿った住宅環境や設備のあり方を理解すること、日常生活における課題に気づき、解決する能力を養うことを目的としている。		
		心理 領域	教育心理学概論	教育過程における人間の心の働きや、学校教育現場における課題について、心理学的な知識、方法、視点から理解することを目指す。具体的な課題として、効果的な学習を援助する教授法や認知の働きを学ぶこと、子どもの身体的、心理的諸側面の発達とその特徴を理解し、年齢・発達に応じた教育について考察すること、知能や学力、性格における個人差の測定・評価方法を学ぶこと、学級集団における児童・生徒について学ぶこと、が挙げられる。このなかで学力格差やいじめの問題など、現代社会においてよくみられる教育の問題について心理学的にアプローチできるようにする。	
			発達心理学概論	子どもの発達のメカニズムについて理解すること、乳児期、幼児期、児童期の発達の特徴をとらえるようになること、子どもとのより良い関わり方の基本を身につけることを目標とする。そのために発達の要因となる遺伝と環境の問題を取り上げ、次にピアジェやヴィゴツキーの理論を中心とした基本的な発達心理学の理論や基礎的な研究を紹介する。また、認知発達、社会性の発達、言語発達、自我形成など、幅広く発達の基礎を捉え、それぞれのテーマで重要な内容を解説する。さらに認知と社会性の発達がどのように関係するかについても考察する。	
			現代青年の心理学	青年期とは、人生の発達段階の1ステージである。この時期は子どもから大人への移行期であるが、第二の誕生と言われるように、心身ともに重要な変容の段階でもある。青年にまつわる問題は古くから存在するが、同時に青年の行動や思考とは時代を如実に反映するものであり、常に新しい問題を含んでいる。本科目では、青年期がどのように捉えられてきたかに始まり、青年期に特有な身体と心の問題、自己意識、対人関係（友人関係、親子関係、異性との関係など）、進路選択等の観点から、現代青年の心理について理解を深めることを目標とする。	
			高齢者の心理学	成人期から高齢期の心理・社会的変化と特徴を学ぶ講義形式の科目である。生涯発達心理学の理論を踏まえ、成人期・中年期・高齢期への段階ごとの変化、高齢者の生理・認知・パーソナリティ・対人関係と適応の特徴や個人差についての知見を、ワークシートで受講者の体験や社会の現象を結びつけながら学ぶ。後半では、高齢者を対象とした心理テスト・援助などの方法論、認知症など精神疾患、死の問題も取り上げる。受講者にとって、エイジング・エデュケーションの機会として自身のライフコースや他者との関わり方の理解にもつなげていく。	
		心理 領域	障害者・障害児心理学	「障害」という言葉の持つ意味は多様であり、それを定義する概念も難しい。当然、障害のある人といってもその様相は多様である。それらの障害の内容と特徴を理解する。具体的には、障害の要因やその生理的・身体的、精神的問題について考え、行動特徴や精神機能、心理的特徴の理解を深めていく。更に、障害児・者の親（家族）の心理、社会的資源を含めた環境の問題、また、生涯発達過程における心理社会的課題にも触れる。特に、身体・知的・精神障害者の支援に関して、学校教育における特別支援や就労や地域生活の課題についても取り上げる。	
			知覚・認知心理学	「知覚」「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味する。この授業では、外界の情報を見る・聞くこと、顔や表情を認識すること、心の中に物体のイメージや、ある空間の地図を思い浮かべること、何かに注意を向けたり記憶したりすること、推理・判断すること、それらに対して生まれる感情と関連付けて把握すること、こうした人の認知に関する基礎的な理論を身につけるとともに、自分の日常生活の中のさまざまな行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようになることを目標とする。	

社会情報展開科目	心理領域	学習・言語心理学	人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習理論である。まず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論などの学習理論について説明し、学習成立の基礎過程を理解させる。また、記憶、概念、思考などの認知過程における学習について述べる。さらに、人間がコミュニケーションに使用する記号システムである言語について、その特徴や構造を解説するとともに、言語習得のメカニズムについて詳述する。これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、認知的技能や言語の習得について考察することを目指す。	
		対人関係論	対人関係、特に自己と他者との二者関係において生じる諸事象を、社会心理学の立場から論じる。社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズム、友人関係や恋愛関係をはじめとする対人関係の形成、維持・進展、葛藤・崩壊の過程、他者との関係を築く上で基礎となる自己認知と評価のしくみ、対人関係と対人行動などについて詳述する。具体的な研究例とそこから見出された知見を解説することを通して、二者関係における対人行動のメカニズムを理解することを目指す。自身が対人関係で経験してきたことと関連づけるなど、積極的に受講することを期待する。	
		社会・集団・家族心理学Ⅱ (家族)	本科目では、家族とは何かを心理学の立場から考え、夫婦・親子・きょうだい・祖父母といった家族間の関係がどのように働いているのか、家族成員の発達やライフステージに応じて家族はどのように変化してゆくのか等、家族の心理学的意味や家族関係の成り立ち、変化について学ぶ。また、家族が抱えるさまざまな今日の課題についても取り上げ、それら課題について社会的背景を踏まえて理解できるようになることを目指す。そして、家族の問題の発生について理解を深めるとともに、どのように解決すべきかについて、心理学援助の実際を学んでいく。	
		心理カウンセリング概論	カウンセリング・心理療法には、様々な理論や技法があり、そのもととなる考え方や背景にある人間観もまた様々である。他方、どんな理論や技法にも共通する、基本的な考え方や姿勢、話を聴くスキルなども存在する。本科目では専門的学習への基礎作りとして、カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴くスキルについて学ぶとともに、代表的な理論や技法について理解することを目指す。授業は、レジュメに基づき進める。随時、確認のための小テストを行うとともに、体験的内容の際には、小レポートの提出を求め、理解を深める。	
		消費者行動の心理学	消費者行動とは、消費行動、購買行動、買い物行動を総称する概念であり、私たちの日常生活にとって大変身近なものである。本授業では、消費者側の購買行動が促進される要因を消費者の心理や特性という観点から明らかにするとともに、集団や社会の観点からも考察し、私たちの消費者行動について心理学的に解明する。また、消費者行動を理解するにあたり、消費者自身の行動を理解するだけではなく、売り手側の理解、例えば、マーケティング戦略に対する理解も必須である。本授業では消費者行動に関する理論や概念の理解を第一の目的とし、さらに現代社会で起こっている消費者行動や心理について具体的に説明できるようになることを第二の目的とする。	
社会情報展開科目	教育・こども領域	教育原理	本科目は、教育の理念、教育に関する歴史や思想を学ぶことを目的とする。教育は何のためにあるのか、これまで教育はどのようになされてきたのか、それはどのような思想に支えられていたのか、これからの社会において教育はいかにあるべきなのかを多様な視点から探究する。このことを通して、これまで自分が教育を受けてきた経験を相対化して捉え、自らの教師観、学校観を編み直し、これからの時代の教育に教師として携わる者に必要となる基本的態度と課題意識を養う。	
		教育史	本科目は、教育の基礎的理解に関する科目として、教育を支える理念、教育の歴史および思想について学ぶことを目的としており、特に歴史的事項を重点的に扱う。「歴史は現代への問いである」という言葉が示すように、教育史を学ぶ第一の意義は歴史を通じて現代の教育をより深く認識することにある。本授業では、西洋と日本における教育の歴史的変遷およびその背景に関する基礎的知識を身につけ、歴史的な視座から教育の基本概念について理解できるようにする。また、古来より家族や社会において営まれてきた教育と学校教育との歴史的関係性について学ぶことを通じ、教育という営みに対する視野を広げることを目指す。	

社会情報連携科目 社会情報展開科目 教育・子ども領域	教育方法学	幼稚園、小学校、中学校、高等学校の各発達段階において、望ましい教育方法を探求し、その実践を行うことができるようになる力を身につけるための授業である。具体的には、思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動や情報活用の実践力を育む授業実践方法、社会的構成主義学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくりの3項目を理解した上で、その実践的指導を学校教育の指導の中でこうなうことをできるようになることを目標としており、実際に、グループで主体的な学びを促進する授業設計の検討やそれに対する相互評価や自己評価を行い、実践的な力を身につける。	
	ICT活用教育	思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動や情報活用の実践力を育む授業実践方法、学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくりの3項目を理解し、小中高等学校の各発達段階において、望ましいICT活用教育方法を探求し、その実践ができるようになることを目的としている。授業前半は各教科の教育法・指導法での知識を基に、ICT機器を活用することについて知識を習得する。後半は、ICT機器を活用した授業の設計及び短い模擬授業と、それに対するディスカッションを行い、相互評価・自己評価の中でICT機器の活用について理解を深める。	
	情報教育	日本の幼稚園、小学校、中学校、高等学校における情報教育の目標である情報活用能力の3つの構成要素（情報活用の実践力・情報の科学的理解・情報社会に参画する態度の育成）に関して正しく理解し、児童や生徒がこれを学ぶことでその能力を社会で生かせるように知識を持ち、情報を活用した授業が、各教科だけでなく特別活動・総合的な学習の時間などでも実践できるようにする。 AIやデータサイエンスの考え方や小学校におけるプログラミング教育の教育的意味を知り、教育活動に無理なく取り入れることができる指導者になることを将来的な目標として授業を進める。	
	国際理解教育	国際理解教育の中で取りあげる人権・多文化・自文化などの内容を、子どもとの関わりから捉える。そして、国際社会の中で多様な価値観があり、それらを認識することを通して、国際理解教育への関心を高め、国際社会の中で共生・協働するための基礎的な素地を養う。 具体的には、多文化社会における文化理解と共生、グローバル社会におけるつながりと相互依存、地球的課題における人権・環境・平和などの課題を国際機関による実践事例を用いて明らかにすることが目標となる。ここで得た知識をもとに国際的に社会貢献できる人材の育成のための教育実践につなげる。	
	算数	幼稚園保育内容「環境」における指導内容である数の概念をどのように指導しようとしているかを発達段階から明らかにしたうえで、小学校段階での認知発達からの算数を概観する。算数の4分野である「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の生活で生かされている場面を考え、見通しを持ち、筋道を立て、考えたことを表現できるように学びを深めていく。決して、解答を求めることにこだわるのではなく、その過程を重んじるようにしていく。さらに、近代にいたるまでの数学の歴史も概観し、先人たちの教えを踏まえ社会生活に算数数学が必要であることの学びを深める。	
	教育社会学	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」「若年未就労者と教育」などである。	
	特別支援教育	学校現場には、障害のある子どもや障害はないが特別な教育的ニーズを持っている子どもたちが多くいる。それらの学校の教員は、特別な教育的ニーズのある様々な子どもたちの理解とその対応が求められる。本講義では、教員に必要な特別支援教育の基本的な知識と支援方法を理解し、実際の場面で生かすことを目標とする。具体的には、特別支援教育の理念を理解し、特別支援教育の対象となる子どもを理解し、特別支援教育の教育課程、指導について理解し、小、中、高等学校における障害のある子どもの教育について理解することが求められる。	

社会情報展開科目	教育・こども領域	情報メディアの活用	学校図書館において必要な情報メディア活用能力を身につけ、情報メディア活用能力の分野において、児童生徒を指導する能力を獲得する。また関連法規・情報倫理についても理解する。さらに児童生徒に指導できるよう、指導力を育成する。具体的には、情報メディアの特性や機器設備の管理、教育で利用するための情報・データベース検索のしくみ、授業におけるコンテンツやICTの活用、特別な支援を要する児童生徒への情報メディアの活用などを理解し、さらに、知的財産権や個人情報保護の問題など、児童生徒が情報メディアを利用する際の支援に必要な知識も身につける。		
	社会情報連携科目	専門演習・卒業研究	社会情報演習	2年次までの社会情報に関する学び、さらに国際日本文化、生活環境、心理、教育・こどもなどの領域にわたる学びで得た知見を踏まえ、4年次に完成させる卒業論文のテーマ設定や論文の構成を学生同士のディスカッションや指導教員の指導を通して学ぶ。学生は上記の各領域、またはこれらを横断するテーマに応じて選択した教員のゼミの所属となり、社会情報の視点を持って、各学科の協力の下で研究法を学び、調査やデータ分析を通して論文指導を受けながら、参考となる文献の研究や、質問紙などの自らが扱うデータの作成などを行い、論文作成に向けて取り組んでいく。	
		卒業研究	社会情報課程における教育・研究は、社会における情報の意味とその働きを理解し、情報を科学的に取扱うための基礎的な知識・技能と態度を身につけるとともに、自ら問いを立て、主体的に解決をめざせる能力を身につけることを目的としている。卒業論文の作成にあたってはこのことを踏まえ、これまでのさまざまな学びで得た知見を総動員しながら、論文の構成を学生同士のディスカッションや指導教員の指導を通して学んでいく。学生は所属するゼミで論文指導を受けながら、社会情報の視点を持って論文作成に取り組む。完成した論文は、指導を受けたうえで発表を行う。		
学際教育科目		海外文化研修	外国の文化を現地での体験を通して学習する研修である。事前学習では、現地文化に対するリサーチを行うことで深く理解を高め、海外研修は異文化を知るのみにとどまらず、広い視野と多角的な視点を持ち、文化の多様性を認め、尊重し合う知性を身につけるためのプログラムであることを十分に理解する。具体的な研修内容は年度によって異なるが、海外の伝統文化、芸術文化、市民社会における活動などに実際に触れ、帰国後は研修先の文化と日本の文化とを比較しながら、具体的に認識してまとめ、プレゼンテーションやディスカッションを行う。		